

事業概要

(令和2年度のまとめ)

目 次

I	概要	
1	京都府立図書館の概要	1
2	令和2年度のトピックス	2
	(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	
	(2) 図書郵送サービスの開始	
3	令和2年度の主な利用状況等	8
II	図書館資料	
1	総資料・年間収集資料	9
	(1) 総資料数	
	(2) 年間収集資料数	
2	図書	9
	(1) 資料数	
	(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数	
	(3) 視聴覚資料・障害者用資料数	
3	逐次刊行物	10
III	利用状況	
1	開館日	11
2	入館者	11
3	新規利用登録者	11
4	ホームページアクセス	11
5	個人貸出	11
	(1) 貸出者数	
	(2) 貸出図書数	
	(3) 借受提供数	
6	複写利用	12
7	調査相談等	12
	(1) レファレンス	
	(2) 他館紹介状発行	
	(3) 他館所蔵資料複写	
8	障害のある方へのサービス	12
	(1) 対面朗読サービス	
	(2) 点字・音声資料貸出	
	(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用	
9	マルチメディア利用	13
10	図書館等への貸出	13
	(1) 相互貸借	
	(2) 機関貸出	

(3) 一括貸出 (貸出文庫)	
11 学校への貸出	14
IV 事業	
1 市町村連携・市町村支援	15
(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク	
(2) 連絡協力車	
(3) 市町村立図書館等職員研修等	
(4) 京都府図書館等連絡協議会	
2 学校支援等	19
(1) 学校支援セット	
(2) 来館型調べ学習等	
(3) 子どもへの読書活動支援事業・不登校児童生徒読書活動支援事業	
3 調査研究・課題解決支援及び情報発信	21
(1) 大学連携	
(2) 京都市図書館との図書相互返却	
(3) 館内見学会	
(4) 講演会・セミナー等	
(5) 資料展示	
(6) ナレッジベース (知的な交流の場) での主な取組等	
(7) 地域連携	
(8) 行政支援サービス	
(9) 広報	
V 施設等	
1 施設及び設備等	30
2 組織	31
3 経費	31
VI 沿革	
1 年表	32
2 歴代館長	36
資料	37
・京都府立図書館基本方針 (令和3年4月改定)	
・京都府立図書館基本方針 (平成28年度～令和2年度)	
・京都府立図書館資料収集方針	
・京都府立図書館サービス計画 (令和3年度～令和7年度) の概要 (広報用資料)	

I 概 要

1 京都府立図書館の概要

京都府立図書館（以下「府立図書館という」）は、日本で最初の公立の図書館である「集書院」を源流とし、明治31年に京都御苑内に設立され明治42年に現在の岡崎の地に移転して以来、100年を超える長い歴史と伝統を刻んでいる。

平成7年の阪神・淡路大震災により建物が大きく損傷したため、ルネサンス風の外壁正面部を残して建替工事を進め、平成13年に地上4階地下2階建の新館を開館した。この間に、京都府の社会教育委員会議から市町村立図書館との役割分担を打ち出した「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」の提言を受け、明治の雰囲気を残した現在の建物で、特に市町村支援と調査研究支援を中心とする取組を進めてきた。

平成27年度には新たな「京都府立図書館基本方針」及び平成28年度から令和2年度までの5年間の「京都府立図書館サービス計画」（以下「サービス計画（第2期）」という。）を策定し、変化の激しい社会において新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指して取組を進めている。

令和2年度はサービス計画（第2期）の最終年度に当たることから、基本方針に基づき、図書館サービスのさらなる向上と様々な機関との連携の拡充に努めるとともに、京都府立図書館協議会の意見を踏まえ、令和3年度から令和7年度にかけての「京都府立図書館サービス計画」（以下「サービス計画（第3期）」という。）を策定した。

基本方針

<サービス計画（第2期）>

- I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

<サービス計画（第3期）>

- I 府内全域の図書館等をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 大学等研究機関や文化施設等と連携するとともに、多様な議論の場を提供することにより、文化の振興と地域の活性化に寄与します

サービス計画（第2期）では、「I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します」「II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます」「III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します」の3本柱からな

る基本方針のもと、変化の激しい社会において、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指して取組を進めてきた。

そのような中であって、図書館を取り巻く社会環境は、サービス計画（第2期）の5年間においても激しく変化し続け、少子高齢化や人口減少、ICT（情報通信技術）の技術革新、度重なる災害、そして新型コロナウイルス感染症と、社会全体が大きく揺れ動き続けた。

京都府の人口は、平成17(2005)年に減少に転じ、自然減少数は平成30(2018)年に8,000人を超え、65歳以上の人口の割合は、平成27(2015)年時点で27.5%と増え続けている。

また、全国における情報通信機器の平成30(2018)年時点での世帯普及率は、スマートフォン79.2%、タブレット型端末40.1%となっており、年代別では、20歳代で約90%、70歳代で約20%がスマートフォンを利用している。

さらに、毎年のように発生する甚大な風水害や令和2(2020)年に新たに確認された新型コロナウイルス感染症等は、予測困難な影響を社会にもたらし、府立図書館の役割を改めて見直すきっかけとなった。

このような経過と現状認識のもと、従来からの市町村立図書館・読書施設（以下「市町村立図書館等」という。）、学校図書館支援及び府民の調査研究支援を大きな柱とし、府立図書館が持つ資源、機能を最大限活用しながら、今まで培ってきた大学、企業等様々な機関と連携した取組、情報通信機器の普及に対応する取組、新型コロナウイルス感染症等の経験を踏まえた非常時における取組等をより一層充実し、府民へのサービスの向上を図るため、令和3年度から令和7年度にかけての5年間の新たな「サービス計画（第3期）」を策定したところである。

2 令和2年度のトピックス

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

令和2年1月以降、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症は府立図書館の運営にも大きな影響を及ぼした。

京都府内の小・中・高・特別支援学校が国の要請に基づき、令和2年3月初旬から、一部の学校を除き臨時休校した。

このような中、多数の利用者が訪れる府立図書館において感染症拡大防止は喫緊かつ重要な課題であり、蔵書点検のための特別整理期間による休館（令和2年2月24日(月)から3月5日(木)まで）に引き続き、令和2年3月6日(金)から3月23日(月)までの17日間、臨時休館した。令和2年3月24日(火)から閲覧席の削減（約50%）、手指消毒用アルコールの設置、手洗い・咳エチケットの励行、職員のマスク着用等の対策を講じた上で開館したが、令和2年4月に入ると新規感染者が増えたため、4月4日(土)から再び臨時休館した。

その後5月21日(水)の緊急事態宣言解除に伴い、翌5月22日(木)以降、順次サービスを再開したが、これまでに経験したことのない緊急事態の中、様々な感染拡大防止対策を講じるとともに、ウィズコロナを見据えた、前例や従来の枠組みにとられない新たな視点でのサービスを積極的に展開した1年となった。

ア 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応経過

期 間	対 応
R2. 2. 24～R2. 3. 5	特別整理期間による休館
R2. 3. 6 ～R2. 3. 23	感染拡大防止のため臨時休館
R2. 3. 24～R2. 4. 3	開館（閲覧席を4割程度削減）
R2. 4. 4 ～R2. 5. 21	感染拡大防止のため臨時休館
R2. 4. 7	国が7都府県に緊急事態宣言
R2. 4. 16	国が緊急事態宣言を京都府を含む全国に拡大(5/14 39県で解除)
R2. 5. 21	国が緊急事態宣言を近畿2府1県で解除（京都、大阪、兵庫）
R2. 5. 22～	サービスを限定して開館 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書資料の貸出・返却のみ ・ 1階及び地下1階の閲覧席、2階（新聞、データベース、インターネット等）を閉鎖 ・ 開館時間の短縮 平日9:30～17:00に短縮（通常9:30～19:00） ※土日は従来から9:30～17:00
R2. 6. 3～	サービス一部再開 <ul style="list-style-type: none"> ・ 館内での複写 ・ 館内での短時間の調査相談（レファレンス） ・ 他館からの取り寄せ
R2. 6. 12～	サービス一部再開 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 1階及び地下1階閲覧席の利用（約50%） ・ 雑誌の閲覧 ◇ 2階閲覧室の利用（閲覧席約50%削減 端末利用回数制限） ・ 新聞の閲覧 ・ マイクロフィルムの利用 ・ オンラインデータベース（新聞データベースを含む）の利用 ・ 国立国会図書館デジタル化資料の利用 ・ インターネット端末の利用（※AVブースは閉鎖） ◇ 休憩スペース、コインロッカー、自動販売機の利用 （休憩スペースも座席削減）
R2. 7. 1～	サービス一部再開（2階AVブース及び対面朗読）
R2. 7. 29～R2. 9. 30	◇開館時間の短縮（5/22～継続） 平日9:30～17:00に短縮（通常9:30～19:00） ※土日は従来から9:30～17:00 ◇1階及び地下1階閲覧席、2階のインターネット・データベースにパーティションを設置。約50%から約70%に座席利用を拡充
R2. 10. 1～	利用制限全面解除（全面開館） 平 日：9:30～19:00 土日祝：9:30～17:00 閲覧席すべて利用可 ◇全面開館に当たり実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 館内の換気を1日2回から3回に拡充（※換気に加え、エアコンの稼働による外気との循環有） ・ 11月から手指消毒用アルコールの設置個所の拡充（1か所→3か所）
R3. 1. 16～	国の緊急事態宣言発出に伴い一部利用制限 ◇閲覧席を30%削減 （開館時間は通常どおり）
R3. 2. 28	国が京都府の緊急事態宣言を解除 ※閲覧席の30%削減は継続
R3. 4. 12～	まん延防止等重点措置 ※閲覧席の30%削減は継続
R3. 4. 25～5. 11 R3. 5. 12～5. 31 R3. 6. 1 ～6. 20	国が緊急事態宣言発出 ◇平日の閉館時刻を午後5時に繰り上げ（通常午後7時） ◇2階AVブース（DVD・ビデオ・音楽の視聴等）閉鎖（長時間の利用を抑止） ※閲覧席の30%削減は継続
R3. 6. 21～7. 11	国の緊急事態宣言解除（まん延防止重点措置に移行）によりサービス一部再開 ◇平日の閉館時刻を通常どおり午後7時） ◇2階AVブース（DVD・ビデオ・音楽の視聴等）再開 ※閲覧席の30%削減は継続 短時間での利用を呼びかけ

イ 館内で実施した主な対応

(ア) 緊急事態宣言期間中の開館時における主な対応

- ◇ 平日の開館時刻は変更せず午前9時30分とし、閉館時刻は通常の午後7時を午後5時に繰り上げ、開館時間を短縮（土日祝日は通常どおり午前9時30分から午後5時まで開館）
- ◇ 長時間の滞在を防止するため2階AVブース（DVD・ビデオ・音楽の視聴等）は閉鎖
- ◇ インターネット席の利用上限を1回1時間に短縮（通常1時間。延長2回まで計3時間）

(イ) 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議で示されたクラスター発生リスクを下げる3つの原則を継続的に実施

項目	取組内容
換気の悪い密閉空間《密閉空間》	▷ 室外との循環器型冷房機に加え、開館中2回換気を実施（11時・14時）
人が密集《密集場所》	▷ 閲覧席を30%削減 ▷ 掲示、館内放送、HP等により、できるだけ短時間での利用を呼びかけ
近距離での会話・発声《密接場面》	▷ 全閲覧席、インターネット・データベース端末機、カウンターにパーティションを設置 ▷ 職員はマスクを着用。来館者にも着用を働きかけ

(ウ) その他の取り組み（継続して実施）

- ◇ 館内3カ所（各フロア）に手指消毒用アルコール液を設置
- ◇ 返却本等について（ブックカバーの装着に関して（エ）参照）
 - ▷ 閲覧図書は書架ではなく所定の場所に返却してもらう。
 - ▷ 閲覧図書や返却本は、ブックカバーが装着された図書はアルコール消毒液で拭き取り、閲覧頻度が低いなど未装着の本はハンディモップで拭き取り
 - ▷ 閲覧頻度が低いなど未装着の本はハンディモップで拭き取り
- ◇ 来館者に対して
 - ▷ 発熱・体調の悪いときは来館自粛、マスクの着用、きめ細やかな手洗
 - ▷ 「京都府コロナ追跡サービス～スマートフォンアプリ『こことろ』」へ登録
 - ▷ 厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ『COCOA』」へ登録
 - ▷ 1日2回館内放送で注意喚起
- ◇ 職員に対して
 - ▷ 毎日出勤前の検温…発熱・体調の悪いときは出勤しない。
 - ▷ マスクの着用、きめ細やかな手洗
 - ▷ 「京都府コロナ追跡サービス～スマートフォンアプリ『こことろ』」へ登録
 - ▷ 厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ『COCOA』」へ登録
- ◇ 委託業者（ビル管理、清掃等）に対して
 - ▷ 毎日出勤前の検温…発熱・体調の悪いときは出勤しない。
 - ▷ マスクの着用、きめ細やかな手洗
- ◇ 館内掲示、館内放送により感染拡大防止への協力を周知

(エ) 閲覧・貸出用図書へのブックカバーの装着

開架書庫10万冊及び書庫で貸出の多い10万冊をあわせ、20万冊にビニール製透明ブックカバーを装着し、返却時等に表紙、裏表紙、背表紙のアルコール消毒を実施。ブックカバーの装着は国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、外注委託により実施した。なお、利用者用手指消毒用アルコールの購入、閲覧席やカウンターに設置したパーティションの制作についても同交付金を活用している。

ウ 臨時休館期間中を中心に実施したサービス

(ア) 子どもの居場所づくり

学校が臨時休校となったため、自由に活動できず、ストレスを感じる子どももいたことから、子どもの居場所づくりが課題のひとつとなった。そのため、3月24日(火)の開館にあわせ、春休みの6日間を府立図書館が持つ機能を生かしながら、京都大学(院)の学生にサポーターとしての協力を得て「こども居場所づくり」を実施した。読書や学習支援に加え、「科学体験(光るツリー等物づくり)」「宇宙体験(4次元デジタル宇宙シアター)」など多彩なメニューを取り入れ、参加した子どもたちや保護者の方々から好評を得た。

- 実施日：令和2年3月24日(火)、25日(水)、27日(金)、31日(火)、
4月2日(木)、3日(金)
- 延べ参加人数：58名

(イ) 府立図書館図書無料お届けサービス

令和2年4月16日に国において新型コロナウイルスの感染増加に対応する緊急事態宣言が出され、京都府も特別警戒都道府県に指定された。

府立図書館や府内の多くの市町村立図書館等が臨時休館しており、知事から不要不急の外出を控えるように府民に要請された中、ゴールデンウィーク中に自宅で読書を楽しむ、少しでも有意義に過ごしていただくことを目的に、府立図書館が送料を負担し図書を自宅に届ける「府立図書館無料お届けサービス」を今回限りの期間限定で実施した。(先着500名。)

既に借りている冊数とは別枠とし、更に府立図書館の図書館カードを持っておられない方も対象とするなど先進的な取組として評価いただき、大きく新聞報道もされたことから、募集初日の4月24日(金)に定員を超え600名に達したため受付を終了し、4月28日(火)にはすべての発送を完了した。(当初は4月28日(火)まで受付予定)

お礼の手紙を添えて返却いただく方も多くおられ、全国の図書館からも多数の問い合わせをいただくなど、大きな反響があった。

- 申込人数：601名
- 貸出人数：556名(重複申込み、希望図書が全て貸出中のため減)
- 貸出冊数：2,213冊
- 発送：令和2年4月25日(土) 552名
令和2年4月28日(火) 4名

(ウ) 読書を通じた家庭学習支援事業

国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、本の楽しさを早い段

階から体験するとともに、自習に不慣れな児童が多い小学校低学年（京都市立を除く1年生から3年生）や府立特別支援学校小学部の全児童を対象に、国語教科書掲載作品の中から選書した図書を全児童分購入し各校に配布した。府立図書館への返却を不要としたことにより、各小学校において児童へ貸し出しを行うなど活用した後は、各学校の図書室や学級文庫の蔵書として活用されている。

学校からは、「子どもたちが大喜びした。その姿をみた職員も本当に喜んでいて。新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、様々な制限がある中、本との出会いはとても貴重である。学校文庫としてすぐ読めるようセットし、みんな大事に読ませてもらっている。」「学習支援はもちろんのこと、密を避けるため休み時間を教室内で過ごさせる場合があり、今回の図書は非常に助かる。」といった声が多く届くとともに、子どもたちからも感謝の手紙や、それぞれの児童の好きな本や印象に残った場面が絵で表現された感想作品をいただいた。

「返却不要」という図書館としての常識すら打ち破り、本庁の職員の応援を得ながら、府立図書館会議室に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため閉鎖していたマルチメディア閲覧室を全面使用して発送作業を行う事業であったが、しっかりと所期の目的を達成できたと考えている。

<事業実績>

- 小学校1・2・3年生(京都市除く) 200校約28,400名
 - 1年生178作品から約9,300冊(人数分)
 - 2年生203作品から約9,400冊(人数分)
 - 3年生196作品から約9,700冊(人数分)

- 府立特別支援学校
 - 学校数：11校
 - 児童数：517名
 - 配布冊数：547冊

※府立特別支援学校は、小学部の全児童を対象に各校で児童の状況に応じた図書を選定し購入。

(2) 図書郵送サービスの開始

新型コロナウイルス感染症の感染状況等により外出を控えたい方や、遠方に居住されているなどにより、府立図書館に来館が難しい方のために、利用者負担(有料)で府立図書館の図書を郵送により届けるサービスを開始した。

返却は利用者負担による郵送や宅配等又は来館による。

ア 特徴

- ・府立図書館カードをもっておられない方でも、カード作成と貸出申込みを同時に行うことができる。カード作成も同時に可能とするサービスは近畿初である。なお、カード作成のみでも可としている。
- ・府立図書館ホームページからの申込みに加え、必要事項を任意の紙に記入し、府立図書館へ送付いただくことでも申込みが可能。

イ 対象

京都府内もしくは隣接府県に在住、京都府内に通学・通勤の方

ウ 開始日

令和3年2月2日（火）

令和2年度の実績は10件17冊であり、令和3年4月以降は増加傾向である。

3 令和2年度の主な利用状況等

区 分	令和元年度	令和2年度
総 資 料 数	1,313,104 冊	1,321,195 冊
開 館 日 数	※273 日	※247 日
入 館 者 数	252,311 人 (1日平均 924 人)	172,424 人 (1日平均 698) 人)
新規利用登録者数	4,256 人	3,957 人
ホームページアクセス件数	423,902 件	443,649 件
個人貸出冊数	175,068 冊 (1日平均 641 冊)	160,509 冊 (1日平均 650 冊)
複写利用枚数	183,324 枚	163,320 枚
調査相談件数	15,384 件	11,815 件
マルチメディア利用者数	47,697 人	30,400 人
図書館等への貸出冊数		
・府内市町村立図書館等 (うち相互貸借)	39,223 冊 (22,544 冊)	36,347 冊 (21,031 冊)
(うち機関貸出)	(751 冊)	(356 冊)
(うち貸出文庫)	(15,928 冊)	(14,960 冊)
・他府県公立図書館・大学等	404 冊	405 冊
・学校図書室 (うち学校支援セット貸出)	28,293 冊 (23,255 冊)	27,449 冊 (22,778 冊)
(うち機関貸出)	(5,038 冊)	(4,671 冊)
子ども読書支援事業による貸出	1,780 冊	1,190 冊
不登校児童生徒読書活動支援事業による貸出	100 冊	150 冊
京都府家庭支援総合センターへの貸出	100 冊	400 冊
備 考	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館3月6日～3月22日(17日間)除く	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館4月4日～5月21日(48日間)除く。2階マルチメディア閲覧室は4月4日～6月11日まで閉鎖(開館日数229日間)

京都市との返却本お預かりサービス

区 分	令和元年度	令和2年度
京都市の本を府で返却	2,326冊	2,009冊
府の本を京都市で返却	7,864冊	7,339冊

Ⅱ 図 書 館 資 料

1 総資料・年間収集資料

(1) 総資料数	1,321,195 冊	
	うち図書	1,016,010 冊
	うち逐次刊行物（図書換算）	305,185 冊
 (2) 年間収集資料数	図書（視聴覚資料を含む。）	13,698 冊
	逐次刊行物（購入分のみ）	373 タイトル

2 図書

(1) 資料数 (単位：冊)

区 分	2 年 度 受 入 冊 数				2 年 度 末 資 料 数			
		購 入	寄 贈	その他		児 童 書	京 都 資 料	外 国 語 資 料
閲覧・貸出用	9,675	7,178	2,219	278	884,532	47,072	27,211	19,503
図書資料	9,352	6,963	2,160	229	860,563	47,072	27,211	19,503
視聴覚資料	323	215	59	49	※23,969	0	0	0
貸出文庫等	4,023	4,023	0	0	131,478	92,795	0	0
合 計	13,698	11,201	2,219	278	1,016,010	139,837	27,211	19,503

(注)外国語資料には、児童書及び京都資料の外国語資料を含む。

※視聴覚資料について京都府立図書館システムによる集計点数を掲載（令和2年度～）

(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数 (単位：冊・%)

分 類	2 年 度 末 冊 数	(百 分 比)
0 総 記	43,095	(4.9)
1 哲 学	44,365	(5.0)
2 歴 史	96,147	(10.9)
3 社 会 科 学	190,074	(21.5)
4 自 然 科 学	55,718	(6.3)
5 技 術	62,899	(7.1)
6 産 業	46,242	(5.2)
7 芸 術	65,592	(7.4)
8 言 語	16,327	(1.9)
9 文 学	168,395	(19.0)
小 計	788,854	(89.2)
教 科 書	24,353	(2.8)
児 童 書	47,072	(5.3)
そ の 他	24,253	(2.7)
合 計	884,532	(100.0)

(3) 視聴覚資料・障害者用資料数

視聴覚資料 (単位：点数)

区 分	2年度末
C D	827
C D - R O M	1,669
D V D	2,576
D V D - R O M	486
ビ デ オ テ ー プ	3,146
カ セ ッ ト テ ー プ	888
マ イ ク ロ フ ィ ル ム	9,119
マ イ ク ロ フ ィ ッ シ ュ	3,730
デ イ ジ ー	1,528
合 計	23,969

※京都府立図書館システムによる集計点数を掲載（令和2年度～）

障害者用資料

(単位：点数)

区 分	2年度末	摘 要
大 活 字 本	3,899	
点 字 図 書	284	
カ セ ッ ト テ ー プ	888	上の表の「カセットテープ」の再掲
デ イ ジ ー	1,528	上の表の「デイジー」の再掲
合 計	6,599	

※京都府立図書館システムによる集計点数を掲載（令和2年度～）

3 逐次刊行物 (単位：タイトル)

区 分	2年度購入数
新 聞	17
雑 誌	356
合 計	373

Ⅲ 利 用 状 況

- 1 開 館 日 247 日
- 2 入 館 者 172,424 人 (1日平均 698 人)
- 3 新規利用登録者 3,957 人 有効登録者累計 134,045 人
 { 京都市内 80.5 %
 其他府内 8.9 %
 他府県 10.6 %
- 4 ホームページアクセス 443,649 件

5 個人貸出 (利用者登録を行っている個人への貸出)

- (1) 貸出者数 延べ 61,226 人 (1日平均 248人)
- (2) 貸出図書数 160,509 冊 (1日平均 650冊)
- (3) 借受提供数 (他の図書館等から資料を借り受けて利用者へ提供したもの)

(単位：冊)

借 受 先		借受冊数	摘 要
府内	市 町 村 立 図 書 館 等	893	地域別内訳は下表 (※)
府外	国 立 国 会 図 書 館	30	東京本館26 関西館 4
	府 外 公 立 図 書 館	619	
	府 外 大 学 図 書 館 等	27	
	府 外 小 計	676	
合 計		1,569	

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	借受冊数 (百分比)
京 都 市	76 (8.5)
乙 訓 地 域	67 (7.5)
山 城 地 域	354 (39.7)
南 丹 地 域	73 (8.2)
中 丹 地 域	111 (12.4)
丹 後 地 域	135 (15.1)
そ の 他	77 (8.6)
合 計	893 (100.0)

6 複写利用

(単位：枚)

区 分	利用枚数	摘 要
図 書 資 料	140,408	白黒 134,521、カラー 5,887
CD-ROM、外部データベース	4,101	
マイクロフィルム	5,291	
国立国会図書館デジタル化資料	11,076	
遠 隔 地 複 写	2,444	遠隔地等の利用者（非来館者）に対して、 当館所蔵資料の複写物を郵送するサービス
合 計	163,320	

7 調査相談等

(1) レファレンス (単位：件)

区 分	件 数
調 査 相 談	11,215
マ ル チ メ デ ィ ア 相 談	564
市町村・府立学校からの調査相談	36
合 計	11,815

(2) 他館紹介状発行

4 件

(3) 他館所蔵資料複写

142 件

8 障害のある方へのサービス

(1) 対面朗読サービス (単位：人・時間)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	/			3	7	6	8	4	7	8	6	5	54
利用時間				6	14	12	16	8	14	16	12	10	108

※4月～6月は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため休止

(2) 点字・音声資料貸出 (単位：点)

資料区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
テ ー プ	1	4	5	1	2	3	1	1	0	0	3	3	24
C D	2	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	6
デ ィ ジ ー	49	24	17	25	34	28	31	28	37	25	20	17	335
合 計	52	28	22	26	37	34	32	29	37	25	23	20	365

(注)他館への協力貸出を含む。

(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用 (単位：件)

区 分	件 数
コンテンツダウンロード利用	479
オンラインリクエスト受信（当館デジ資料等の他館送付）	35
オンラインリクエスト送信（他館デジ資料等の借受提供）	22
合 計	536

9 マルチメディア利用

(単位：人)

利 用 区 分	利 用 者 数
インターネット閲覧端末	23,301
C D - R O M 閲覧端末	69
A V (映像・音声)	3,888
外部データベース閲覧端末	1,812
マイクロフィルム閲覧端末	504
国立国会図書館デジタル化資料閲覧端末	826
合 計	30,400

※マルチメディア閲覧室は令和2年5月22日開館後も6月11日まで閉鎖（AVブースは6月30日まで閉鎖）

10 図書館等への貸出

(1) 相互貸借

(単位：冊)

貸 出 先	貸出冊数	摘 要
府内市町村立図書館等	21,031	地域別内訳は下表（※）
他府県公立図書館・大学等	405	
合 計	21,436	

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	貸出冊数	(百分比)
京 都 市	2,945	(14.0)
乙 訓 地 域	2,101	(10.0)
山 城 地 域	6,531	(31.1)
南 丹 地 域	3,235	(15.4)
中 丹 地 域	3,165	(15.0)
丹 後 地 域	2,688	(12.8)
京都学・歴彩館、大学等	365	(1.7)
合 計	21,031	(100.0)

(注) 市町村立図書館等を経由し小中学校へ貸し出した学校支援セット等は含まない。

(2) 機関貸出 (単位：冊)

貸出先	貸出冊数	摘要
府の機関	322	議会図書館、財政課、文化芸術課等
その他	34	
合計	356	

(注) 学校への機関貸出は別掲

(3) 一括貸出 (貸出文庫) (単位：冊)

区分	貸出冊数	摘要
貸出文庫	14,960	市町(組合)教育委員

※貸出内訳 (単位：冊)

貸出先	冊数	貸出先	冊数	貸出先	冊数
大山崎町	520	綾部市	700	伊根町	4,400
相楽東部広域連合	1,235	福知山市	785		
亀岡市	400	宮津市	1,850		
南丹市	3,540	京丹後市	1,530		

11 学校への貸出

(単位：冊、セット)

区分	貸出冊数	貸出セット数
学校支援セット貸出	府立学校版	220
	市町(組合)立小中学校への貸出	17
	市町村立図書館への貸出	0
	府立高等学校への貸出	183
	府立特別支援学校への貸出	12
	総合教育センターへの貸出	8
	小中学校版	534
	市町(組合)立小中学校への貸出	449
	市町村立図書館への貸出	10
	府立高等学校への貸出	44
	府立特別支援学校への貸出	10
	総合教育センターへの貸出	21
小計	754	
機関貸出	市町(組合)立学校への貸出	72
	府立高等学校への貸出	4,185
	府立特別支援学校への貸出	405
	総合教育センター(北部支所含む)への貸出	9
	私立学校への貸出	0
	小計	4,671
合計	27,449	

(注) 学校支援のための学校以外への貸出を含む。

IV 事 業

1 市町村連携・市町村支援

府立図書館では、約132万冊の蔵書や各種のデータベースを揃え、府民の調査研究に役立つ資料や情報を提供することはもちろん、府立図書館と府内の市町村立図書館等・連携大学図書館の膨大な蔵書をインターネット上で瞬時に一括検索できるシステムを構築するとともに、市町村立図書館等の利用者が必要とする図書等を搬送する「連絡協力車」を巡回運行することにより、南北に長い府域における図書サービスの地域間格差の解消に努めている。

府立図書館がセンター館となって運営するウェブアプリケーション「K-Libnetシステム」を基盤とし、資料の相互貸借及び府立図書館が運行する連絡協力車を含むネットワーク全体を、京都府図書館総合目録ネットワーク（以下「K-Libnet」という。）という。

連絡協力車は、全ての市町村立図書館等及び府立学校、連携する大学図書館、国立国会図書館関西館、府立京都学・歴史館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館を巡回している。

各図書館等の利用者は、K-Libnetシステムで検索して見つけた他の図書館の図書を身近な図書館で利用することができ、連絡協力車で運ばれるため送料の負担もない。府内のどこに住んでいても、身近な図書館で高度な図書館サービスを楽しむ環境の充実に向けて、取り組んでいる。

(1) 府内の各図書館とのネットワークの強化

府内の市町村立図書館・読書施設（以下「市町村立図書館等」という。）との相互貸借図書の搬送や府立学校への図書の搬送等のために運行している連絡協力車について、平成29年度からは市町村立図書館等及び連携している大学図書館には週2回、令和元年度からは全府立学校に巡回するなど拡充に努めてきた。

大学図書館との相互貸借については、令和3年4月1日現在、京都外国語大学附属図書館、京都女子大学図書館との試行を含め、以下の12大学図書館となった。

さらに、すべての府立特別支援学校や京都府総合教育センター、同北部研修所がK-Libnetに参加しており、参加機関は103機関（令和3年4月1日現在）となっている。

連携している大学図書館

京都先端科学大学図書館	京都工芸繊維大学附属図書館
京都大学附属図書館	京都府立大学図書館
京都教育大学附属図書館	京都ノートルダム女子大学図書館情報センター
福知山公立大学メディアセンター	京都橘大学図書館
佛教大学附属図書館	京都外国語大学附属図書館
京都府立医科大学附属図書館	京都女子大学図書館

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館の区分（平成29年4月改正規程）

区 分	摘 要
A参加館	K-Libnetシステム内の「京都府図書館総合目録」に自館の蔵書データを提供し、他の参加館と相互協力を行う館（すなわち、図書の所蔵データを「京都府図書館総合目録」で検索できる館） さらに、蔵書データの提供方法によって以下のとおり細分化する。
	横断検索館 総合目録からの横断検索に対応し、リアルタイムで自館の蔵書データを提供する館
	データ提供館 総合目録に定期的に自館の蔵書データを直接送信して提供する館
	CiNii検索館 CiNiiBooksに参加し、総合目録からCiNiiBooksへの横断検索によって自館の蔵書データを提供する館
B参加館	総合目録への自館の蔵書データの提供は行わないが、K-Libnetシステムを利用して他の参加館との相互協力を行う館
C参加館	府立の教育機関

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館一覧（令和3年4月1日現在）

図 書 館 ・ 読 書 施 設 等 の 名 称	A参加館			B参加館	C参加館
	横断検索館	データ提供館	CiNii検索館		
1 府立図書館 [センター館]	○				
2 府立京都学・歴史館	○				
3 京都市図書館(20館)	○				
4 向日市立図書館	○				
5 長岡京市立図書館	○				
6 大山崎町立中央公民館図書室	○				
7 宇治市中央図書館（3館）	○				
8 城陽市立図書館	○				
9 久御山町立図書館	○				
10 八幡市立八幡市民図書館	○				
11 京田辺市立中央図書館	○				
12 井手町図書館	○				
13 宇治田原町立図書館		○			
14 木津川市立中央図書館（3館）	○				
15 精華町立図書館	○				
16 笠置町図書室				○	
17 和束町体験交流センター図書室	○				
18 南山城村図書室				○	
19 亀岡市立図書館中央館	○				
20 南丹市立中央図書館（4館）	○				
21 京丹波町中央公民館図書室等（3館）		○		○	
22 綾部市図書館	○				
23 福知山市立図書館中央館（4館）	○				
24 舞鶴市立図書館（2館）	○				
25 宮津市立図書館	○				
26 与謝野町立図書館（3館）	○				
27 伊根町コミュニティセンターほっと館図書情報室	○				
28 京丹後市立図書館（6館）	○				

図書館・読書施設等の名称		A参加館			B参加館	C参加館
		横断 検索館	データ 提供館	CiNii 検索館		
29	京都ライトハウス情報ステーション				○	
30	京都先端科学大学図書館		○			
31	京都教育大学附属図書館			○		
32	福知山公立大学メディアセンター			○		
33	佛教大学附属図書館			○		
34	京都府立医科大学附属図書館			○		
35	京都工芸繊維大学附属図書館			○		
36	京都府立大学附属図書館			○		
37	京都ノートルダム女子大学図書館情報センター			○		
38	京都橘大学図書館			○		
39	京都外国語大学付属図書館			○		
40	京都女子大学図書館			○		
41	京都府総合教育センター					○
42	京都府総合教育センター北部研修所					○
103	府立学校61校 (全50高等学校、全11特別支援学校)					○

(2) 連絡協力車

府内の市町村立図書館等との相互貸借図書や府立学校への図書の搬送等のため、毎週連絡協力車を運行している。

なお、京都市図書館との間では週5回（双方の休館日を除く）、京都市のブックメール便が府立図書館に巡回している。

連絡協力車の巡回機関（令和3年4月1日）

区分	摘 要
公立図書館等	市町村立図書館・読書施設（全26市町村）
大学図書館	京都先端科学大学図書館、京都大学附属図書館、京都教育大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、京都府立医科大学附属図書館、京都工芸繊維大学附属図書館、京都府立大学附属図書館、京都ノートルダム女子大学図書館情報センター、京都橘大学図書館、京都外国語大学付属図書館、京都女子大学図書館
連携機関	国立国会図書館関西館、府立京都学・歴彩館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館
府立学校等	府立学校61校（全高等学校、特別支援学校） 京都府総合教育センター、同センター北部研修所

図書の搬送実績

(単位：冊)

区	分	搬送冊数	摘要
府内相互貸借	当館 ⇒ 市町村立図書館等	21,031	
	市町村立図書館等 ⇒ 当館	893	
	市町村立図書館等 ⇔ 市町村立図書館等	31,570	
府立学校等機関貸出	当館 ⇒ 府立学校等	4,599	総合教育センター含む。
学校支援セット貸出	当館 ⇒ 府立学校・市町村立図書館等	22,778	直送を含む。
合	計	80,871	

(3) 市町村立図書館等の研修

市町村立図書館等に勤務する職員の資質向上のため、研修を毎年度実施している。

令和2年度はレファレンスに関する初級・中級の研修をそれぞれ開催したが、初級に関しては新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りながら、若手の司書がレファレンスの基礎を少しでも多く取得できるよう、講義をオンラインでも配信したところである。

また、平成30年度から開始した、市町村立図書館等の職員が身近な会場で研修に参加できるよう、府立図書館の職員が講師として市町村立図書館等に出向いて行う出前研修について、令和2年度も、市町村立図書館等のニーズを踏まえ府内5か所で実施したところであり、特にニーズの高い「複写における著作権」については、国立国会図書館関西館から講師を招へいして実施した。

令和2年度 研修

日時	名称	内容	会場
9月3日(木)	レファレンス研修(初級)	レファレンス講習会	府立図書館及びオンライン
10月2日(金)	出前研修	本の修繕	伊根町コミュニティセンターほっと館図書情報室
10月22日(木)	出前研修	本の修繕	宇治市中央図書館
10月29日(木)	出前研修	複写における著作権 (講師：国立国会 図書館関西館)	城陽市立図書館
10月29日(木)	出前研修	レファレンス	与謝野町立図書館
12月1日(火)	出前研修	図書資料の修復	長岡京市立図書館
12月10日(木)	レファレンス研修(中級)	レファレンス	府立図書館

このほか、毎年実施し、昨年度は3回実施した各市町村立図書館等の職員巡回について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施は10月の1回となった。そのため、臨時的館長会議をオンラインで開催するなど、意見交換と情報共有に努めた。

(4) 京都府図書館等連絡協議会

「京都府図書館等連絡協議会」(略称：京^{きょう}図^と連^{れん}協^{ぎょう})は、本府における図書館事業等の振興及び相互の協力を図ることを目的とする組織であり、全26市町村の市町村立図書館等を

はじめとする府内の49施設で構成されている。

京図連協は、研修研究事業・相互協力事業・広報事業など、府内一円での図書館サービスの向上に向けた取組を毎年度実施しているほか、「京都図書館大会」の実行委員会に参画したり、京都府教育委員会と共催で「子ども読書本のしおりコンテスト」を開催したりするなど、他機関との連携にも努めている。

特に、同協議会が令和2年11月30日に開催した京都図書館大会は、はじめての取組としてオンラインのみで開催したところ、会場へ集合する必要がなく、発言に加え、特にチャットによる意見交換が活発に行われるなど、講師をはじめ参加者から高い評価を得た。ウィズコロナにおける様々な会議や大会の運営のあり方を考える第一歩となったところである。

2 学校支援等

(1) 学校支援セット

「学校支援セット」は、調べ学習や読書、教室や図書館等での展示・貸出などに活用する本のセットである。府立図書館で環境や文化、仕事や防災等のジャンル・テーマごとに数十冊をセットにし、府内の小・中学校及び府立学校にセット単位で最大14週間学校に貸し出す取組を平成20年度に開始し、毎年、セット内容の充実と利便性の向上に努めている。図書の搬送は府立図書館が運行する連絡協力車で行い、市町村立小中学校は、近隣の市町村立図書館・読書施設で申込み及び返却、府立学校はK-Libnetにより直接申込みを行い連絡協力車による直接搬送、返却を行っている。いずれも送料を含め無料で利用できる。

令和2年度は、「学校支援セットのご案内」パンフレットをリニューアルし、さらに同セットを照会するホームページから在庫セット数や貸出状況が確認できるようにするなど、利便性の向上を図り、令和3年度当初から運用を開始した。

あわせて、令和2年度は絵本セットの種類を増やしたところである。

なお、学校支援セットとは別に、学校の希望に応じて1冊単位で図書を貸し出す「機関貸出」も実施している。

学校支援セットの内容（令和3年4月1日現在）

区 分	ジ ャ ン ル
府立学校版	環境／医療・福祉／教育／文化／社会／仕事／自然科学／芸術／ヤングアダルト／新学習指導要領対応／ミニ版／切り抜き速報／特別支援教育・絵本／特別支援教育・教員用
小中学校版	環境／古典／ことば・読み物／食育・健康／福祉・人権／国際理解／仕事／自然科学／防災／歴史・社会／国語教科書掲載作品／芸術・スポーツ／ヤングアダルト／新学習指導要領対応／特別支援教育・絵本／特別支援教育・教員用

(2) 来館型調べ学習等

児童・生徒の知的好奇心を喚起し読書を通じた学力の向上につなげるとともに、学生・生徒の探究型学習を支援し、大学や専門学校のゼミの受け入れ、関係団体と連携した講座の開催等を通じ、特に府立図書館にはじめて来館する方の利用促進を図ることを目的に、学校支援事業の一環として、小・中学生、高校生、大学生、専門学校生の見学や「調べ学

習（探究型学習）」、府内の教職員の研修、市町（組合）教育委員会等の視察を受け入れている。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初から受け入れを控えたことから、学校の授業としての受け入れは、感染拡大が落ち着いた令和2年10月の1回（高校生、大学生合同）のみとなった。

また、京都府教育委員会認定フリースクールへの貸出に当たり、来館した児童生徒が自ら選書を行う取組を実施したところであるが、その際、館内見学をあわせて実施した。（フリースクールへの貸出は（3）参照）

来館型調べ学習等の受入内容

主な対象	内 容 ・ ね ら い
小学生 中学生	【図書館見学】 府立図書館の閲覧室はもちろん自動化書庫等図書館内を案内し、約132万冊の蔵書規模を実感させるとともに、地元の図書館や学校図書館と府立図書館との役割分担について理解させる。
高校生 大学生 専門学校生	【調べ学習】 館内を見学し、図書館の利用法や資料の探し方の説明を受けた後、それぞれのテーマに沿って、府立図書館の資料を利用した調べ学習・探究型学習を行う。
教員 教育委員会 行政機関等	【視察等】 府立図書館の学校支援制度の活用を促進するため、教員を対象とする講座等に場所を提供し、併せて館内見学を実施するほか、教育委員会や行政機関の視察も受け入れている。

来館型調べ学習等の受入実績（令和2年度）

区 分	小・中学生	高校生及び大学生(合同)	フリースクール	団体等	合 計
回/人	—	1回 48人	2回 25人	2回 19人	5回 92人

(3) 子どもへの読書活動支援事業・不登校児童生徒読書活動支援事業

様々な課題（生活困窮世帯・ひとり親家庭等）を抱える子どもが夢や希望を持って成長していけるように、「子どもへの読書活動支援事業」を実施している。府立図書館が所蔵している子ども向けの図書約9万冊を、京都府が実施している事業の支援を受け、「こどもの居場所づくり」や「子ども食堂」に取り組んでいる団体に、1回あたり100冊以内6箇月以内で、搬送費を含め無料で図書を貸し出した。

令和2年度当初は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くの団体が活動を休止したことから、15団体に1,190冊の貸出となり、団体数では前年度と同数（15団体）となったが、貸出冊数は前年度比減（前年度1,780冊）となった。

また、学校外の教育支援センター・適応指導教室や京都府教育委員会認定フリースクールに通所する児童生徒の読書活動の機会を充実していくために、市町村立図書館等と連携して実施する「不登校児童生徒読書活動支援事業」について、府立図書館ではフリースクールに1回あたり100冊6箇月以内で図書を貸し出している。

令和元年度は1校のフリースクールに100冊の図書を貸し出したが、令和2年度は2校の

フリースクールに150冊を貸し出した。なお、貸出に当たっては児童生徒、スタッフが来館し、自ら選書するとともに、館内見学をあわせて実施した。

3 調査研究・課題解決支援及び情報発信

(1) 大学連携

大学が所蔵する専門的な資料を府民が身近な図書館で閲覧できるように、また、府立図書館や市町村立図書館等が所蔵する資料を大学の学生や教職員が大学図書館で閲覧できるように大学図書館との連携を図り、京都府図書館総合目録ネットワーク（総合目録及び連絡協力車）を活用した所蔵資料の相互貸借を順次拡大している。

令和3年4月1日現在、下表の12大学と相互貸借を行っている。

府内の大学図書館との相互貸借の実施状況（令和3年4月1日現在）

大学図書館名	開始時期等
京都先端科学大学図書館	(従前から実施)
京都大学附属図書館	平成28年7月 相互貸借試行開始 平成29年10月 協定締結（本格実施）
京都教育大学附属図書館	平成29年3月 協定締結 平成29年4月 相互貸借開始
福知山公立大学メディアセンター	平成29年6月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
佛教大学附属図書館	平成29年9月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都府立医科大学附属図書館	平成30年2月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都工芸繊維大学附属図書館	平成30年10月 協定締結（本格実施）
京都府立大学附属図書館	平成31年3月 相互貸借試行開始 平成31年4月 協定締結（本格実施）
京都ノートルダム女子大学図書館 情報センター	令和元年12月 相互貸借試行開始 令和2年4月 協定締結（本格実施）
京都橘大学図書館	令和2年1月 相互貸借試行開始 令和2年4月 協定締結（本格実施）
京都外国語大学附属図書館	令和2年12月 相互貸借試行開始
京都女子大学図書館	令和3年4月 相互貸借試行開始

<京都図書館総合目録ネットワークを活用した相互貸借サービスのメリット>

- ・ 府立図書館のホームページから府内公共図書館だけでなく、連携する大学図書館の所蔵資料も一括検索できる。
- ・ 府民が、大学図書館の所蔵資料を居住地に近い公共図書館に取り寄せて閲覧することができる。
- ・ 大学の学生や教職員等が、府立図書館や市町村立図書館等の所蔵資料（地域の郷土資料、専門書の多い大学図書館には所蔵されていない一般書等）を大学図書館の窓口で借りることができる。
- ・ 府立図書館が運行する連絡協力車を活用することにより、資料の送料が不要となる。

さらに、大学の授業の一環として実施されるキャリア演習、図書館司書を目指す学生の実習やインターンシップを受け入れるなど、様々な形で大学との連携を図っているところである。

(2) 京都市図書館との図書の相互返却

平成29年11月に開始した府立図書館で借りた図書を京都市図書館(20館)を通じて、また、京都市図書館で借りた図書を府立図書館を通じて返却できる「京都市図書館との返却本お預かりサービス」については、それぞれで借りた本を身近な図書館に返却できることから利用が拡大した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館や利用制限が影響し、前年度とくらべ利用が減少(令和元年度10,154冊 令和2年度9,348冊)したが、多くの府民が利用しており、利用者からは、「身近にある京都市立図書館に返却できることは非常にありがたい」との声を伺っている。

(3) 館内見学会

毎月第3水曜日の午後2時から定期的を実施してきた「館内見学会」についても令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館などの対応のため、ほとんど中止となり3回の開催(8月、11月、12月)にとどまった。

見学会での主な説明内容は次のとおりである。

ア 「関西近代建築の父」と呼ばれ、京都市役所や同志社大学も手がけた武田五一により設計された旧館の外壁や外階段を保存修理して新館への建替を進めたこと。

イ 都道府県立図書館では府立図書館が初めて導入した自動化書庫と地下2階4層からなる電動積層集密書庫に、開架資料の10倍以上の膨大な資料を収めていること。

ウ 書庫の資料の中には、教科書や映画のシナリオなどのコレクションが含まれていること。

エ 府立図書館は、来館者向けサービスの他に、市町村立図書館等や学校への支援を行っていること。

これまでの参加者からは、普段は見るできない図書館のバックヤードや自動化書庫等の見学を通じて「自動化書庫の大きさと設備に驚いた。」「古い教科書や雑誌など幅広いジャンルの資料があって驚いた。」「バックヤードの見学は貴重であった。府立図書館には様々な機能があり、府内の学校や図書館と連携しているのが印象的だった。」「市町村立図書館を支援していることを初めて知った。」「古い外観なのにコンピュータ化された館内に驚いた。」「裏方の仕事の大変さがわかった。」「図書館の利用の仕方がわかった。」などの感想が多く寄せられるなど、府立図書館を知ってもらおう効果の高い取組であり、今後とも感染拡大の防止を徹底しながら、開催を目指していきたい。

(4) 講演会・セミナー等

多くの方々に府立図書館を知ってもらおうとともに、来館されたことがない方にも親しんでいただくなど、府立図書館を広く利用いただくことを目的に、これまでから、学識経験者、博物館、大学や府立高校と連携した様々なイベントや講座、セミナー、展示を開催してきたところである。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた運営となり、利用者参加型のセミナーは開催を控え、講座についても感染状況が一定落ち着いた時期に、感染拡大防止対策を十分講じた上で開催したが2回にとどまった。

また、平成30年度から実施しているDVD上映会についても年間6回予定していたが、1回の開催にとどまった。

○ DVD上映会

京都をテーマとした作品や、幅広い年齢の方にご覧いただける作品を上映。

開催日	内 容
11/11 (水)	蘇る玉虫厨子 時空を超えた技の継承

○ 講演会

「府立図書館連続講座」の実施状況（令和2年度）

開催日	講 師 及 び 演 題
11/1 (日)	畑 正高 氏（香老舗(にろうほ) 松栄堂(しょうえいどう) 主人) 「古典に学ぶ香りの暮らし」
12/12 (土)	澤田 美恵子 氏(京都工芸繊維大学 教授) 「工芸という文化ー自然とモノからのメッセージの受容」

○ イベント・展示等の実施状況（令和2年度）

令和2年度は、集合型のセミナーや講演会の開催が制限されたところであるが、展示については、会場入口に手指消毒アルコールを設置し、入場者が集中することがないよう動線を工夫するなど、感染予防対策を徹底した上で実施した。

開催に当たっては、これまでから連携を図ってきた大学、岡崎地域の文化施設、府立の施設や学校、更には文部科学省とも連携し、相乗効果を高めることができる展示に努めたところである。

開催日	実 施 内 容	会 場
8/28(金)～ 9/13(日)	京都府埋蔵文化財調査研究センター連携「府庁周辺の 桃山文化」展 ※関連図書をミニコーナーで展示	ナレッジベース
9/19(土)～ 10/21(水)	京まふ2020年特別企画 総本山仁和寺と連携した企画 展示 ・御室八十八か所霊場整備と御室ムスメの紹介 ・台風で被災した仁和寺西方、御室八十八ヶ所霊場 (成就山)の修復整備とそのキャラクターである88 人の「御室ムスメ」の紹介 ・御室流華道による「いけばな展示」 ・般若心経を絵で表した資料などを紹介 ※仁和寺関連図書や写経に関する資料等約70冊を ミニコーナーで展示	エントランス

開催日	実施内容	会場
11/7(土)～ 11/15(日)	<p>第9回子ども読書本のしおりコンテスト入賞作品展示</p> <p>4月23日の「子ども読書の日」記念事業として、子どもが積極的に読書を行おうとする意欲を高めるとともに、子どもの読書活動の意義や重要性について府民1人1人の理解と関心を深めるため京都府教育委員会が実施したコンテストの入賞作品125点を展示。</p> <p>府立図書館を含め府内公立図書館等において巡回展示。</p>	エントランス
10/23(金)～ 11/15(日)	<p>京都府立堂本印象美術館「小野竹喬と春男～父と息子の切ない物語」展とのコラボレーション企画としての関連展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野竹喬と堂本印象が活躍していた時代の雑誌掲載挿画や表紙絵の展示 ・小野竹喬と堂本印象の言葉のパネル展示 ・小野竹喬と堂本印象に関連する所蔵図書リスト ・衣笠絵描き村に住んでいた画家に関連する所蔵図書リスト ・衣笠絵描き村に住んでいた画家の紹介パネル展示 ・府立堂本印象美術館の紹介パネル展示 <p>※ 府立堂本印象美術館では府立図書館紹介ミニコーナーを設置</p>	ナレッジベース

開催日	実施内容	会場
12/3(木)～ 12/20(日)	<p>『CONNECT²』(コネクト)への参加</p> <p>令和2年度初めて東京以外で開催された文化庁と国立近代美術館の主催事業へ参加。</p> <p>美術館、劇場、図書館、動物園などが集まる京都の文化ゾーンである岡崎地域において、テーマ「障害者週間から始まる、アートを通して共生・多様性について考える」に沿った展示や資料紹介を行った。</p> <p>【府立図書館の取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程：令和2年12月3日(木)～20日(日) ・場所：京都府立図書館2階ナレッジベース、関連資料紹介コーナー(1階) ・府立図書館における事業概要 <p>(1) 明治11年(1878)に開校した我が国最初の公立特別支援学校である「京都盲啞院」及び後継学校に伝来した教材・教具類(重要文化財)のレプリカの展示及び特別支援教育の源流をたどるパネル展示。点字絵本、ふれて「見る」世界のパネルの展示、府立聾学校の学校生活風景のサイネージ映像など。</p> <p>(2) 大正期に当館で個展を開催したこともある竹久夢二(1884-1934)の挿絵本から、目に障害のある方向けの触図(立体ぬり絵)の展示、触図を作る作業(立体プリンター)の紹介、障害のある方も楽しめるオリジナル「ぬり絵」の無料配付など。</p> <p>(3) 京都大学と連携企画「ないをたのしむ展～ひねくれ編～」と題してさまざまな感覚で楽しめる特色ある展示</p> <p>※12月9日(水)宮田亮平文化庁長官が当館を視察</p> <p>○ 他の近隣参加施設</p> <p>国立近代美術館、京都市京セラ美術館、ロームシアター京都、京都市動物園、京都市勧業館みやこめっせ、kokoka京都市国際交流会会館</p>	ナレッジベース
12/15(火)～ 12/23(水)	<p>第37回京都府高等学校総合文化祭 最優秀作品・優秀作品の展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府高等学校文化連盟の協力を得て、第37回京都府高等学校総合文化祭「美術・工芸部門」の最優秀賞・優秀賞3点と「写真部門」の最優秀賞・優秀賞2点を展示 	エントランス

開催日	実施内容	会場
1/6(水)～ 3/7(日)	<p>京都国立近代美術館 展覧会への出品及び館内展示 展覧会「分離派建築会100年建築は芸術か？」へ旧館時代の家具2点、図書3点を出品</p> <p>■エントランス展示(1月5日(火)～2月23日(火祝))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面パネル(出典:『平和記念東京博覧会画帖』洪洋社/1922年 等) ・デジタルサイネージ映像(『分離派建築会の作品第3』岩波書店/1924年) ・資料展示(後藤健二「自分の建てた監獄」〈「ホトトギス」16(4)/1913年 所収〉等) <p>■ナレッジベース展示(1月5日(火)～2月23日(火祝))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧館時代の家具7点を展示 ・「京都府の特別教育の源流」「触図」「竹久夢二のぬりえ」もCONNECTから継続し展示 	<p>京都国立近代美術館</p> <p>エントランス</p> <p>ナレッジベース</p>
3/9(火)～ 4/8(木)	<p>令和元年度京都府統計グラフコンクール入賞作品展示 京都府政策企画部企画統計課が実施した上記コンクールにおける入賞作品21点を展示</p>	エントランス
3/26(金)～ 4/21(水)	<p>京都大学総合博物館特別展『木を遺す、木を伝える 一木製品の調査と保存一』連携展示</p> <p>京都大学総合博物館で開催されている特別展『木を遺す、木を伝える 一木製品の調査と保存一』にあわせ、府立図書館で連携展示を行った。京都大学による北白川・岡崎の発掘調査の成果や出土遺物を展示するとともに、地下1階では木製品や岡崎・鴨東地域の歴史について書かれた図書のコーナーを設置</p> <p>京都大学総合博物館内でも府立図書館所蔵資料の展示(6月27日(日)まで)</p>	ナレッジベース

(5) 資料展示

「思いがけない本との出会い」を演出するため、イベントとのコラボレーション、京都に関すること、季節の話題、時事問題等をテーマとして関連する府立図書館の所蔵資料を一箇所集めた展示を、通年にわたり実施した。

作成したブックリストは展示終了後も館内やホームページで提供し、レファレンス等にも活かしている(令和2年度の展示実績は下表のとおり(年度をまたぐ展示を含む。))

所蔵資料テーマ展示

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
1 階 コ ー ナ ー		
京都の美術250年の夢 「最初的一步：コレクションの原点」	3月～4月 5月～9月	京都市京セラ美術館
京都の美術250年の夢 第1部～第3部 総集編	9月～12月	
コーヒーの世界	1月～2月	
贈る言葉	3月～4月	
1 階 展 示 ケ ー ス		
当館所蔵「クルーガー文庫」について	1月～4月	
100年前の本	6月～8月	
丹後ちりめん300年 ～古から未来へ～	8月～10月	丹後織物工業組合
描かれた図鑑の世界	10月～12月	
「鬼」～特色あるコレクションから～	1月～3月	
京の医学	3月～5月	
地 下 1 階 特 設 コ ー ナ ー 展 示		
自分の本を見つける ～図書ガイド本特集～	3月～4月	
メディア社会の情報 ～インフォデミックを防ぐ～	6月～8月	
地震大国日本 ～その日に備える～	8月～10月	
百人一首の雅な世界	10月～12月	
哲 学 ～自分の中で考える芯を作りませんか～	1月～3月	
本から見つけるデザインのヒント	3月～5月	
ミ ニ コ ー ナ ー		
ウイルスについて知る	3月～4月	
ねむり	3月～4月	
感染症と文学	6月～7月	
懐かしの「アサヒカメラ」	7月～8月	
府庁周辺の桃山文化	8月～9月	埋蔵文化財調査研究センター
総本山仁和寺×京都府立図書館	9月～10月	仁和寺
ベートーヴェンを読む	9月～10月	
京都府立堂本印象美術館とのコラボレーション企画	10月～11月	堂本印象美術館
アイヌにふれる	12月	
Connect 『視えない』を知る 「手話」を知る 竹久夢二 つながりを知る	12月	Connect
丑（ウシ）のいろいろ	1月	
「分離派建築会」関連図書ミニコーナー	1月～2月	京都国立近代美術館
追悼安野光雅さん	1月～2月	
春めく本	3月～4月	
木を遺す、木を伝える 一木製品の調査と保存一	3月～4月	京都大学総合博物館

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
館長プロデュース連続講座コーナー		
古典に学ぶ香りの暮らし	11月～12月	
工芸という文化	12月	
エントランス展示		
懐かしの「アサヒカメラ」	7月～8月	◇ミニコーナー
総本山仁和寺×京都府立図書館	9月～10月	◇ミニコーナー
「分離派建築会100年 建築は芸術か？」展 コラボレーション企画	1月～2月	◇ミニコーナー
春めく本	3月～4月	◇ミニコーナー
2 階 コ ー ナ ー		
明智 光秀	通 年	NHK大河ドラマ
ナレッジベース展示		
府庁周辺の桃山文化	8月～9月	◇ミニコーナー
京都府立堂本印象美術館とのコラボレーション企画	10月～11月	◇ミニコーナー
Connect	12月	◇ミニコーナー
「分離派建築会100年 建築は芸術か？」展 コラボレーション企画	1月～2月	◇ミニコーナー
『木を遺す、木を伝える 一木製品の調査 と保存』	3月～4月	◇ミニコーナー
注) その他の展示と連動したエントランス展示は、表中◇で表示		

(6) ナレッジベース（知的な交流の場）での取組等

知的な交流の場としての活動拠点として、平成29年度に2階会議室を「ナレッジベース」と名付け運用を開始するなど、府立図書館では、様々な機関との連携を積極的に推進している。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館や利用制限等のため、取組を控えることとなったが、これまでから、情報の拠点としての図書館ならではの強み（豊富な図書資料・データベース等と、司書の専門性を活かしたレファレンス等）を活かして、岡崎魅力づくり推進協議会、民間機関、NPO等と連携した取組を実施してきたところである。

(7) 地域連携

京都有数の観光地である岡崎に立地する府立図書館は、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟している。近隣の文化施設等と連携した様々な取組を展開、館内には近隣施設のチラシの配架、観光情報コーナーなどを設置している。特に、近接する京都市京セラ美術館、京都国立近代美術館等については、主な展覧会の時期に合わせて所蔵資料テーマ展示を行っているほか、過去の図録を集めたコーナーも設置している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、岡崎地域の各施設が臨時休館や利用制限を行っており、大きなイベントの実施を控えたが、京都市京セラ美術館開館記念展「京都の美術250年の夢」へ府立図書館旧館当時から所有している（初代）宮永

東山の「公孫樹文花瓶」を貸し出すなど、岡崎地域の盛り上げに協力したところである。

(8) 行政支援サービス

平成30年度から京都府の各課・室・京都府総合教育センター及び同北部研修所への資料の貸出を行う行政支援サービスを実施している。連絡協力車を活用し、京都府庁内の各課・室は京都府議会図書館を窓口として資料を届けるとともに、京都府総合教育センター及び同北部研修所へは直送している。令和2年度は4組織から322冊の利用があった。

(9) 広報

府立図書館は明治の面影を残す「歴史ある図書館」として知られており、令和2年度もマスコミ各社へ積極的に新規事業やイベント、展示に関する情報提供を行った結果、数々の媒体に取り上げられた。

また、令和3年3月に実施した府立図書館システムの更新にあわせ、情報へのアクセスをわかりやすくするなどホームページを全面的にリニューアルするとともに、SNS(Twitter)を活用するなど若年層や新たな利用者に向け積極的に情報発信した。

V 施 設 等

1 施設及び設備等

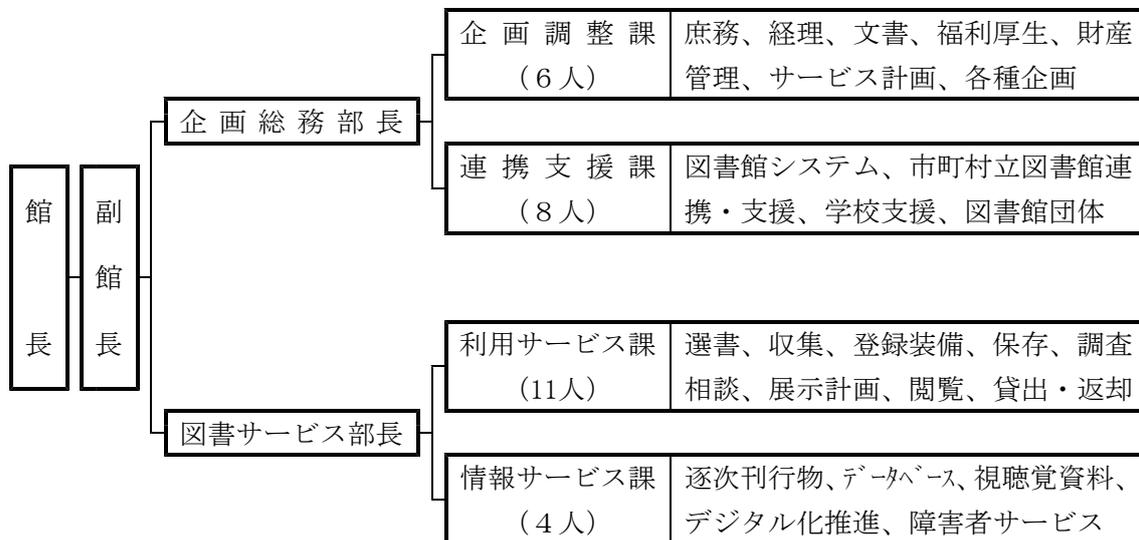
(令和3年4月1日)

項 目	摘 要
所 在 地 等	〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町71番地 (平成28年9月30日改正条例公布、平成29年4月1日施行) TEL : 075-762-4655 FAX : 075-762-4653 ホームページ : https://www.library.pref.kyoto.jp/
開 館 日	平成13年5月11日(建替による新館開館。府立図書館設置は明治31年)
建 築 費	617,415万円(外構工事・設備・家具等を含む。)
収 蔵 規 模	約150万冊(令和2年度末資料数 約132万冊) ・書架(1,710㎡) 約10万冊 ・書庫(1,776㎡) 電動積層集密書庫 約100万冊 自動化書庫 約40万冊
利用者用端末 (令和3年4月現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書検索 当館蔵書検索用端末(OPAC)15台、他館蔵書検索用端末5台 ・データベース データベース閲覧端末8台、新聞記事データベース閲覧端末5台、 CD-ROM閲覧端末2台 ・国会デジタル 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧端末4台 ・インターネット インターネット閲覧端末15台、インターネット等受付用端末2台 ・その他マルチメディア等 マイクロリーダー3台、映像ブース6台、音声ブース2台 障害者サービス用端末3台
開 館 時 間	火曜日～金曜日：午前9時30分～午後7時 土・日曜日、祝日：午前9時30分～午後5時
休 館 日	月曜日(祝日及び振替休日は開館、翌日が休館) 毎月第4木曜日(祝日は開館) 年末年始、特別整理期間

2 組織 <令和3年4月1日現在>

常勤職員 32人

非常勤職員 17人（館長1人・会計年度任用職員16人）



3 経費

(単位：千円)

科 目	事 項	2年度決算額	摘 要
1 図書館費 (3以外)	人件費	295,778	
	資料費	38,783	図書32,881 逐次刊行物5,902
	事業費	169,688	外壁等補修含む
	小 計	504,249	
2 図書館費外	事業費	1,547	
	小 計	1,547	事務局費/教育連絡調整費/社会教育総務費
3 図書館費 (国庫事業)	学びの保障	38,205	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した臨時事業
	感染防止対策	20,000	
	小 計	58,205	
合 計		564,001	

Ⅵ 沿革

1 年表

明治31年(1898) 4月	府立京都図書館御苑内創立	昭和26年(1951) 9月	本館大閲覧室屋根修理着工休館
" 6月	業務開始	" 10月	本館蔵書一部知恩院倉庫に別置
33年(1900)	夜間開館開始	" 11月	本館大閲覧室安全開架式化
36年(1903)10月	巡回図書館(貸出文庫)制度開始(昭和25年3月廃止)	" 12月	本館新体制で開館
38年(1905) 4月	児童室開設(大正14年3月閉鎖)	27年(1952) 6月	本館読書相談係設置
39年(1906) 6月	館外貸与規則制定告示	" 7月	園部地方分館開館(園部町立図書館内、昭和41年11月閉館)
" 11月	新館起工式		北桑田地方分館開館(京北町下中、昭和54年8月(京北農業協同組合弓削支所内)仮移転、同55年3月閉館)
42年(1909) 2月	新館竣工		木津地方分館開館(旧役場内、昭和29年7月(木津小学校内)、同38年5月(町民センター内)移転、同50年3月閉館)
" 3月	京都府立京都図書館規則告示	28年(1953) 4月	本館月曜日休館を実施
" 4月	新館開館	29年(1954) 2月	伏見分館新築工事着工
大正 8年(1919) 1月	本館図書分類目録編纂に着手	" 9月	京都府立図書館「善本目録」作製
11年(1922) 4月	貸出文庫を増設	30年(1955) 9月	青年学級文庫実施
昭和 3年(1928) 3月	帯出規程告示	32年(1957) 6月	中京分館(河原町分館改称)開館(烏丸庁舎内、昭和40年1月(京一商同窓会館)仮移転、同40年11月(京都府中京庁舎内)移転、平成13年3月閉館)
" 4月	個人貸出実施	35年(1960)10月	中京分館館外貸出実施
" 6月	和漢図書分類目録分類表12冊作製	38年(1963) 3月	本館読書相談係・学生自由閲覧室・貸出文庫閉鎖、蔵書の一部を府立総合資料館へ移管
8年(1933)10月	京都府中央図書館に指定	" 11月	本館日曜・土曜午後・夜間休館
16年(1941) 5月	児童室復活開室(昭和23年4月元貴賓室に移転)	" 12月	児童室土・日曜休室
22年(1947) 8月	館外貸出廃止	39年(1964) 1月	本館外装改修工事
23年(1948) 9月	読書ルーム開設(河原町丸善京都店地下)	" 5月	本館夜間・土曜午後再開(9時まで)、貸出室設置
24年(1949) 4月	読書相談開始		児童室館外貸出実施、土曜日開室
" 6月	河原町分館開館(河原町丸善京都店地下、昭和31年9月閉館)		伏見分館館外貸出実施
25年(1950) 2月	伏見分館開館(伏見信用金庫2階、昭和29年7月移転、同63年3月閉館)	" 7月	市内分館日曜日休館
" 6月	宮津地方分館開館(宮津町役場内、昭和28年4月(宮津市図書館内)、同32年10月(労働セツルメント内)、同39年5月(宮津市立図書館内)、同46年8月(新宮津市立図書館内)移転、平成9年3月閉館)	40年(1965) 7月	児童室に母親文庫設置
" 7月	綾部地方分館開館(綾部市立図書館内、昭和38年7月(市民センター内)移転、同41年9月閉館)	" 9月	京都府教育委員会基本規則一部改正
	峰山地方分館開館(奥丹後地方教育局内、昭和30年6月(丹波公民館内)、同37年9月(丹波小学校内)、同55年4月(峰山町中央公民館内)移転、平成9年3月閉館)		教育庁係等設置規程一部改正により課制施行
" 8月	学生自由閲覧室新設	41年(1966)11月	自動車文庫命名式(蛭川知事「あゆみ号」と命名)
" 11月	京都府立図書館設置条例公布(条例第62号)		移動図書館事業開始(平成2年12月終了)
昭和26年(1951) 4月	上京分館開館(北区紫郊会館内、昭和31年5月(桜谷文庫内)移転、同51年5月閉館)	42年(1967) 7月	本館修繕工事
		" 9月	貸出室移転再開

昭和44年(1969)12月	本館夜間閉館時間を7時に変更	平成 2年(1990) 3月	「点字・録音図書目録(点字版)」刊行
46年(1971) 8月	本館貸出室の図書を閲覧室に統合、第2閲覧室開室 貸出方式をブラウン方式に切替	〃 4月	連絡協力車事業本格実施
48年(1973) 4月	上京分館外貸出実施	〃 6月	機構改正により本館は4課組織に
50年(1975) 3月	身体障害者用便所・スロープ新設	3年(1991) 3月	本館模様替内装工事(受付カウンター・新聞雑誌室等配置換)
〃 5月	本館(閲覧室・中央カウンター・新聞雑誌室開設)内装工事 本館閲覧室を完全開架式に切替	〃 6月	マイクロリーダープリンターのサービス開始
51年(1976) 4月	本館閲覧用目録作成に着手	〃 8月	「連絡協力車だより」発刊
〃 6月	京都府図書館等連絡協議会発足、府立図書館に事務局を置く	4年(1992) 9月	毎月第2土曜日 児童室 午前9時半から開室開始
〃 7月	児童室改修工事	5年(1993) 3月	「京都府の公共図書館 1992年版」刊行
53年(1978) 3月	本館改修工事(外装・屋根葺替・玄関・防災設備) 本館閲覧用目録整備完了	6年(1994) 3月	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会、京都府立総合資料館と共同刊行
54年(1979) 3月	本館書庫改修工事	7年(1995) 2月	阪神・淡路大震災(1月17日)による本館一部被害の補修・補強工事実施
〃 4月	国会図書館からの図書貸出制度発足 本館自習室閉鎖	〃 5月	本館老朽化による安全対策のため館内模様替え(事務室の1階への移動等)実施。5月1日から2箇月間臨時休館(7月3日再開館)
〃 11月	「専門情報機関要覧」刊行	〃 8月	連絡協力車北部コースの運行を月2回に拡充(全市町村月2回運行)
56年(1981) 9月	移動図書館用電動集密書架設置	〃 9月	一般図書室の天井一部損傷による補修工事実施。9月18日から臨時休館(10月16日再開館)
〃 12月	伏見分館改修工事	〃 12月	京都府社会教育委員会議が京都府教育委員会教育長に「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について(提言)」を提出
57年(1982) 7月	障害者サービス(対面朗読)実施	8年(1996) 3月	平成8年度当初予算に府立図書館整備費を計上
58年(1983) 2月	生涯教育推進事業として読書推進講座実施	〃 9月	新府立図書館建設基本計画の概要を発表 9月補正予算に基本設計費等を計上
〃 3月	「京都府の公共図書館」刊行 伏見分館ブックポスト設置	9年(1997) 3月	平成9年度当初予算に実施設計費等を計上
〃 6月	図書館協力貸出本格実施	〃 4月	新館整備のため本館を休館
〃 7月	新着図書案内発行	〃 9月	本館仮施設(京都市下京区、旧中小企業総合指導所)へ移転完了
59年(1984)12月	連絡協力車試験的運行開始(2コース)	10年(1998) 3月	府立図書館解体工事及び壁面(東側前面)保存工事完了 平成10年度当初予算に新館建設工事費等を計上
60年(1985) 7月	国立国会図書館とのオンライン利用実験実施	〃 7月	総合資料館蔵書との一体的データ化作業開始
61年(1986) 8月	京都府教育委員会教育長から「生涯学習社会を展望する京都府の図書館のあり方」を京都府社会教育委員会議へ諮問		
〃 12月	昭和61年度全国公共図書館参考事務研究集会開催		
62年(1987)10月	国立国会図書館とオンライン実施		
63年(1988) 3月	「京都府の公共図書館1987年版」刊行		
〃 10月	図書館資料広域貸出事業開始 「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会と共同刊行		

平成10年(1998) 9月	本館事務室の再移転(旧中小企業総合指導所から隣接の旧女子高等技術専門校へ)	平成21年(2009) 3月	所蔵音声資料の音声目録CD-ROM(デジ版)作成、配布
" 11月	新府立図書館新築工事起工式	" 6月	府立図書館「岡崎」100周年記念事業(小展示・パネル展等)開催(～22年3月)
11年(1999) 2月	平成10年度近畿地区公共図書館研修開催	" 9月	府立図書館「岡崎」100周年記念パンフレット作成
" 3月	平成11年度当初予算に新築工事費等計上	" 11月	国立国会図書館関西館との連携(連絡協力車の運行)
" 6月	「日本目録規則1987年版改訂版」「日本十進分類法新訂9版」「日本著者記号表改訂版」採用	22年(2010) 4月	学校支援セット貸出小中用CD-ROM目録を作成、配付
12年(2000) 3月	平成12年度当初予算に新築工事費等計上	" 9月	京都府立医科大学附属図書館と連携した府民講演会開催
" 5月	国立国会図書館総合目録ネットワーク参加	" 10月	新着図書お知らせサービス開始
" 10月	新館竣工	23年(2011) 4月	祝日開館を実施
" 11月	仮施設から新館に移転、開館準備作業本格化	" 8月	学校支援ポータルサイト開設
	「京都府図書館総合目録ネットワーク運営規程」施行(1日)	" 12月	館内全面禁煙の実施
13年(2001) 2月	仮施設及び府立総合資料館からの図書資料移転終了	" 12月	京都大学研究者等と連携したサイエンスイベント開催
" 4月	機構改正により2課制(総務課:2係、資料課:4担当)施行	24年(2012) 4月	子ども読書本のしおりコンテスト実施
	京都府立図書館の管理運営に関する規則(平成13年京都府教育委員会規則第1号)施行	" 8月	府立図書館サービス計画策定
" 5月	京都府立図書館個人貸出規程等、各種規程施行	" 11月	図書館活用講座実施
	開館式	25年(2013) 3月	府立図書館のシンボルマークと和文ロゴタイプ作成
	京都府図書館総合目録ネットワークのインターネット発信開始	" 7月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会議で報告
	一般開館	" 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施
	連絡協力車の毎週運行開始	26年(2014) 9月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始
" 6月	京都府図書館総合目録ネットワーク運用開始		府民利用施設のあり方検証において「見直すべき施設」に区分
14年(2002) 4月	「子ども読書絵てがみコンテスト」実施	27年(2015) 4月	連絡協力車の全府立高校への巡回開始
15年(2003) 2月	館内完全分煙実施		サビエ/視覚障害者情報総合ネットワークのサービス開始
18年(2006) 4月	インターネット貸出待ち登録サービス開始	" 6月	府立図書館サービスの充実に向けた検討会議設置
" 5月	電話による貸出延長サービス開始	28年(2016) 3月	図書館システム更新
" 12月	京都府図書館総合目録ネットワークに府内全市町村が参加		府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画策定
19年(2007) 3月	取寄せ申込みeサービス開始	" 4月	機構改正により部課制(企画総務部:2課、図書サービス部:2課)施行
" 4月	連絡協力車の一部の府立高校への巡回開始	" 7月	カーリル社と連携協定締結
20年(2008)	源氏物語千年紀記念事業(小展示・パネル展等)開催	" 9月	京都大学附属図書館との相互貸借試行開始(29年10月本格実施)
5月	インターネット貸出延長サービス開始	" 9月	図書館協議会設置のため、京都府立図書館設置条例全部改正、京都府立図書館条例公布(29年4月1日施行)
" 9月	学校支援セット貸出開始		

平成28年(2016)11月	京都府図書館総合目録ネットワークシステムの充実を図る産官学連携プロジェクト開始	平成31年(2019)4月	京都府立大学附属図書館との相互貸借本格実施
〃 12月	京都府立図書館協議会委員の第1期委員公募開始	令和元年(2019)7月	SNS(Twitter)による情報発信開始
	府内図書館等館長会議開催	〃 9月	不登校児童生徒読書活動支援事業を開始
29年(2017)2月	全国の公立図書館初のクラウドソーシング開始	2年(2020)3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
〃 3月	京都教育大学附属図書館との相互貸借に関する連携協定締結(運用29年4月～)	2年(2020)4月	京都花園大学情報センター(図書館)、京都ノートルダム女子大学図書館情報センター、京都橘大学図書館との相互貸借本格実施
〃 4月	京都府立図書館協議会を設置	〃 4月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
〃 10月	連絡協力車の市町村立図書館等への巡回を週2回に増便	〃 5月	サービスを限定し再開(当初は貸出・返却のみとその後拡大)
〃 11月	知的な交流の場「ナレッジベース」の試験運用開始	〃 10月	利用制限全面解除
〃 12月	子どもへの読書活動支援事業開始	〃 12月	京都外国語大学付属図書館との相互貸借試験開始
	京都市図書館との「本の相互返却サービス」の試行開始	3年(2021)1月	一部利用制限(閲覧席削減等)
〃 12月	マイナンバーカードを活用した「図書館共同利用システム」実証事業に参画	〃 2月	郵送貸出サービス開始
30年(2018)4月	福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、府立医科大学附属図書館との相互貸借本格実施	〃 3月	京都花園大学情報センター(図書館)との連携解消(双方合意)
	府議会図書館を窓口とした京都府庁への図書資料の配送の試験運用開始		図書館システム更新
〃 10月	京都工芸繊維大学附属図書館との相互貸借本格実施	〃 4月	府立図書館基本方針及び府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画(令和3年度～令和7年度)策定
〃 11月	京都市図書館との「本の相互返却サービス」を「京都市図書館との返却本お預かりサービス」として本格実施		京都女子大学図書館との相互貸借試験開始
31年(2019)2月	岡崎での開館110周年記念事業実施		
〃 3月	京都府立大学附属図書館、花園大学情報センター(図書館)との相互貸借試験開始		

2 歴代館長

氏 名	在 職 期 間
三宅 五郎三郎	明治31年4月 ～ 明治33年3月
原田 千之助	明治33年3月 ～ 明治33年12月
中道 貫一 (館長心得)	明治34年1月 ～ 明治34年2月
三宅 五郎三郎	明治34年4月 ～ 明治37年3月
湯 浅 吉 郎	明治37年3月 ～ 大正5年5月
北 畠 貞 顕	大正5年10月 ～ 昭和15年11月
内 藤 乾 吉	昭和15年11月 ～ 昭和22年7月
西 村 精 一	昭和22年7月 ～ 昭和38年10月
相 馬 利 雄	昭和38年10月 ～ 昭和45年8月
岩 崎 彰 之 助	昭和45年8月 ～ 昭和47年4月
吉 川 博 明	昭和47年4月 ～ 昭和48年6月
庄 林 二 三 雄	昭和48年6月 ～ 昭和49年4月
宮 本 英 男	昭和49年4月 ～ 昭和50年3月
布 村 忠 雄	昭和50年4月 ～ 昭和55年4月
長 谷 川 啓 司	昭和55年4月 ～ 昭和56年4月
浜 辺 一 彦	昭和56年4月 ～ 平成元年7月
上 田 将 (本庁指導部長兼任)	平成元年7月 ～ 平成元年9月
林 芳 男	平成元年9月 ～ 平成4年4月
柴 田 實	平成4年4月 ～ 平成6年5月
高 木 多 喜 男	平成6年6月 ～ 平成8年3月
五 十 嵐 一 郎	平成8年4月 ～ 平成10年3月
西 山 隆 史 (本庁指導部長兼任)	平成10年4月 ～ 平成10年5月
小 山 雄 一	平成10年6月 ～ 平成13年3月
中 里 隆 憲	平成13年4月 ～ 平成16年3月
津 守 俊 一	平成16年4月 ～ 平成19年3月
松 田 定	平成19年4月 ～ 平成21年3月
勝 間 喜 一 郎	平成21年4月 ～ 平成24年3月
宮 野 文 穂	平成24年4月 ～ 平成28年3月
丸 川 修	平成28年4月 ～ 令和3年3月
山 口 隆 範	令和3年4月 ～

京都府立図書館基本方針

(令和3年4月改定)

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の文化遺産となる出版物等を適切に収集・保存し、様々なサービスにより提供する場です。

府立図書館は、この理念を踏まえ、急激な社会変化に対応していくため、歴史と大学のまち京都の立地を活かしながら、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民の調査研究や知的活動の拠点となることを目指します。

I 府内全域の図書館等をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

市町村立図書館・学校図書館等の活動を支援するとともに、各館と協力して、府内の図書館サービスの充実を図ります。また、府民に的確な情報を提供するため、市町村立図書館・学校図書館・大学図書館等をつなぎ、ハブとしての機能を果たします。

II 多様な文化資源の情報を取り扱い、幅広い調査研究のニーズに応えます

府立図書館の役割に応じた資料の収集を行うとともに、多様な文化資源に関する情報を取り扱います。また、様々な情報を求める人々が利用しやすい図書館サービスを提供し、幅広い調査研究のニーズや府民の知的好奇心に応えます。

III 大学等研究機関や文化施設等と連携するとともに、多様な議論の場を提供することにより、文化の振興と地域の活性化に寄与します

100年を超える府立図書館の歴史、文化施設が集中する岡崎という立地、大学のまち京都の特性を最大限に活かし、様々な機関と連携して事業展開を図るとともに、多様な議論の場を提供することにより、文化の振興と地域の活性化に寄与します。

京都府立図書館基本方針

(平成28年3月改定 平成28年度～令和2年度)

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

京都府立図書館は、この理念を踏まえ、変化の激しい社会において、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指します。

I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

各公立図書館・学校図書館等の活動を支援しつつ、各館と協力することによって、府内の図書館サービスを充実させます。また、府民に的確に情報を提供するため、各公立図書館・学校図書館等と大学図書館等をつなぎ、府内の各種図書館のハブとしての機能を果たします。

II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

府立図書館の役割に応じた選書を行いつつ、多様な文化資源に関する情報を取り扱います。また、様々な情報を求める人々が利用しやすい図書館サービスを提供し、高度な知的要求に応えます。さらに100年を超える府立図書館の歴史と文化施設が集中する岡崎という立地を最大限に活かします。

III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

多様な議論を展開しながら新たな情報を創造していく場を設定し、提供することにより、各機関・団体と連携し、様々な課題の解決につながる調査研究を支援します。あわせて、その成果を発信する拠点となり、こうした活動が各地で展開されるよう働きかけます。これらを通じて、京都の文化の創造と府内各地域の活性化に寄与します。

京都府立図書館資料収集方針

(平成28年12月改正)

京都府立図書館は、創設以来百年を超える収集資料を継承し、府内の中核的図書館として、現在及び将来の利用者のために、多様かつ的確な情報により資料を選定し、収集し、保存する。

1 基本的な考え

- (1) 府民の調査研究の拠点及び生涯学習を支援する図書館としてふさわしい資料を収集する。
- (2) 府内図書館ネットワークのセンターとして、市町村立図書館及び学校図書館振興のための資料を収集する。
- (3) 京都府立京都学・歴彩館をはじめとする文化施設との連携を考慮し、資料を収集する。
- (4) 多様な意見のある事柄については、幅広い観点から資料を収集する。

2 収集する資料

- (1) 収集する資料の種類は、図書、逐次刊行物、映像・音響・電子資料、障害者向け資料等とする。
- (2) 収集部数は原則として1部とする。
- (3) 収集した資料は、原則として永年保存とする。

3 収集方法

購入、寄贈等により収集する。

4 資料収集の協議

重要事項については、収集委員会により協議する。

5 資料選定の具体的基準

収集する資料の選定については、別に定める資料収集基準による。

京都市立図書館サービス計画を策定

京都市立図書館では、「京都市立図書館サービス計画（令和3年度～令和7年度）を策定しました。

この計画は、平成27年度に策定した「京都市立図書館サービス計画（平成28年度～令和2年度）」が本年度末に終了することから、これまでの成果と課題を踏まえ、府民へのサービスの向上を図るため、今後5年間の新たなサービス計画を策定したものです。

■ 計画案のポイント

市町村立図書館・読書施設、学校図書館への支援、府民の調査研究支援を引き続き重要な柱として位置づけ、3つの基本方針と17の取組項目を記載

- I 府内全域の図書館等をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 大学等研究機関や文化施設等と連携するとともに、多様な議論の場を提供することにより、
文化の振興と地域の活性化に寄与します

■ 主な取組

- (1) 大学等様々な機関と連携した取組
 - 全ての府立学校の蔵書をインターネットを通じて検索し相互貸借することができる取組
 - 大学生による「図書館応援チーム（仮称）」が企画・実施する取組
 - 近隣文化施設と連携した取組
- (2) 情報機器の普及に対応する取組
 - 閲覧室にWi-Fi環境を整備するなど調査研究に役立つ取組
 - 電子書籍をスマートフォン等情報通信機器により利用できる取組
 - 利用案内や調べ案内のオープンデータでの提供
- (3) 非常時における取組
 - 市町村立図書館・読書施設等のニーズを踏まえた職員が参加しやすい研修（オンラインを含む）
 - インターネット等による図書の郵送貸出等の取組
 - 電話やインターネット等によるレファレンスサービス

事業概要（令和2年度のまとめ）

令和3年7月発行

発行者 京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町

TEL (075) 762-4655 (代)

FAX (075) 762-4653

URL <https://www.library.pref.kyoto.jp/>